



# 重文指定の 灯台どうだい？

④

不動まゆう

つushima  
角島灯台  
(山口県下関市)



刻印から歴史に思いを馳せる



## 欧州の技術集めた歴史的レンズ

御影石の風合いと気品に灯台建築技術を伝授する姿に魅了される。曰した師でもある。

本の灯台の父R・Hフランクが手がけた最高傑作とも評される灯台だ。フレネルが1823年に初点の明治9(1876)年から光を放つ第1等8面レンズも現役。この導入されたステイブンのレンズ、実は興味深い歴史資料でもある。1874年のイギリス製と言われているのだが、通常メーカー名が記される銘板に土木技師として「D.&T. STEVENSONが刻印されているのだ。Dはデービッド、Tはトーマスのイニシャルで、ステイブン兄弟の名前だとわかる。ステイブンだ。骨子(レンズの枠組)は父の代から続くスコットランドで名高い灯台技師一家であり、ブランド

さらにこのレンズを製造したメーカーなのだ。2社が関わったようだが、2社が関わったようだが、2社が力を合わせたのかもしれない。当時に思いを馳せることのできる飛び切りのレンズ

部でそれぞれパネルが組み合わさっており、上部にはBARBER、そして下部の4面のみにSAUTERの刻印があった。どちらもフランスのメーカーだ。

これは想像だが、ステイブンから発注を受けたバビエ社は納期間に合わせるため、ソーラー社から下部のパネルを一部提供してもらったのではないだろうか。裏付ける記録は見つからないが、角島灯台のためスコットランドの技術者とフランスのレンズメーカー2社が力を合わせたのかもしれない。当時に思いを馳せることのできる飛び切りのレンズ

(CIVIL ENGINEERS) は上帯部、中帯部、下帯部である。